

**日本多施設共同コーホート（J-MICC）研究
平成27年度 第1回 研究モニタリング委員会 議事録**

日 時：平成28年2月5日（金） 10時00分～12時15分

場 所：名古屋大学医学部 基礎研究棟1階 会議室2

名古屋市昭和区鶴舞町65

出席者（敬称略）：井上真奈美、岩崎 基、岡村智教、尾島俊之、寶澤 篤（以上、委員）

栗木清典（静岡・桜ヶ丘地区 研究責任者）、森 満（札幌J-MICC 研究 研究責任者）、成松宏人（神奈川県コーホート研究 研究責任者）

田中英夫（主任研究者）、浜島信之（前主任研究者）

若井建志（中央事務局長）、内藤真理子、菱田朝陽、川合紗世、岡田理恵子、服部雄太、清木俊雄、高木咲穂子、松永貴史（以上、中央事務局）

1. 研究モニタリング委員長の選出

新しい任期（2年間）の開始にあたり、委員全員一致で、井上真奈美委員を委員長として選出した。

2. 平成26年度第1回研究モニタリング委員会議事録の確認

平成26年度第1回研究モニタリング委員会議事録の内容を確認した。

3. 倫理審査の実施状況

主任研究者（田中）より、愛知県がんセンターおよび名古屋大学の倫理審査委員会にて、伊賀市コホートのJ-MICC 連合参加、山形大学・慶應義塾大学との共同研究実施、山形大学・慶應義塾大学とのベースラインデータ共同集計の実施、オーダーメイド医療の実現プログラム、東北メディカル・メガバンク、JPHC 研究との共同研究における調査項目（身長）の追加、「ジャポニカアレイ®」解析におけるコントロール用データセットの構築に伴う研究計画の改訂が承認されたことが報告された。

4. 研究進捗状況

中央事務局（若井）より、ベースラインデータのクリーニングにより研究協力者数がほぼ確定し、2015年11月末現在、J-MICC 研究本体で研究協力者が約75,000名、J-MICC 連合をあわせると全体で約101,000名に達したことが報告された。また第二次調査の同意者数は約31,000名、J-MICC 連合をあわせて約46,000名になったことが報告された。さらに中央事務局に保管されているバフィーコートまたはDNAは約92,000名分となった。委員より、対象者の募集が長期にわたったことによるデータ統合上の注意について質問があり、主任研究者（田中）より、時代効果は確かにあるので集計上留意する必要があると回答された。

5. 第二次調査開始地区の研究計画の検討（静岡・桜ヶ丘）

静岡県立大学の栗木先生より、静岡・桜ヶ丘地区第二次調査の研究計画、調査実施

手順書について説明がなされた。委員より、参加率の見込みについて質問があり、栗木先生より、同様な方法で第二次調査を行った地区の結果より、6割程度を見込んでいるとの回答がなされた。また中央事務局（若井）より、参加率を上げるため、対面調査に参加しなかった人への調査票郵送調査を検討していただきたいとのコメントが出された。

また、委員より、人間ドックの案内状と一緒に調査票を郵送したほうが分かりやすいのではとの意見があり、栗木先生より、健診機関の都合で同時郵送は無理であるが、調査時期や場所について誤解のないように工夫するとの回答がなされた。委員より、第二次調査で再度バフィーコートを採取する目的について質問があり、栗木先生より、今後 DNA 試料が多く必要になる可能性が高いためと回答された。審議の結果、研究計画を承認した。

6. 新規調査開始地区の研究計画の検討（札幌、神奈川 [仮称]）

主任研究者（田中）より、J-MICC 研究参加地区が西日本に偏っているため、新規に北海道と神奈川地区の参加を検討していることが説明された。

札幌医科大学の森先生より、札幌 J-MICC 研究の研究計画について説明がなされた。具体的には、札幌市内の病院で参加者を募集すること、調査票に疼痛に関する項目を追加すること、追跡は 2030 年度までを予定していることなどが説明された。委員より、共同研究者に企業が入っていることについて質問があり、研究に関わらないのであれば、研究協力機関としたほうが良いとの意見が出された。また委員より、J-MICC 研究全体として、将来、各研究機関の後継者がいなくなった時の対策（検体等を中央事務局に移送するのかなど）を決めておいたほうが良いとの意見が出された。

次に、神奈川県立がんセンターの成松先生より、神奈川県コホート研究の研究計画について説明がなされた。具体的には県の西側の地域を対象とすること、住民健診による調査を行う予定であること、可能であれば職域健診でも調査したいこと、調査票に社会経済的状況などの項目を追加すること、追跡調査は 2036 年度までを予定していることなどが説明された。委員より神奈川県としては本研究にどのような成果を期待しているのかとの質問があり、成松先生より、まずは県民の健康状態を把握し、神奈川県が掲げる「未病」対策に貢献していきたいとの考えが示された。

両地区の研究計画については、更に詳細を詰める必要があることから、今回は意見を求める場とし、次回に（メールによる審議も含めて）審議することとした。

7. 「オーダーメイド医療の実現プログラム」との共同研究について

中央事務局（若井）より、「オーダーメイド医療の実現プログラム」との共同研究を行うため、理化学研究所（理研）にゲノムワイド関連研究（GWAS）のための対照群用検体の提供を行い、J-MICC 研究の独自研究にも使用できる 14,537 名分の GWAS 用タイピングデータが得られていることが報告された。今後の活用方法としては、まず横断研究を行い、将来的にはコホート研究も行う予定であること、山形県コホート研究、鶴岡メタボロームコホート研究の参加者についてもそれぞれ 1,400 検体、1,200 検体について、理研と同じチップで GWAS 用タイピングを行い、共同研究や再現性検討のためにデータを用いる予定であることが説明された。また「オーダーメイド医療の実現プログラム」から追加の共同研究提案やデータ提供の要望があり、すでに身長データを提供したことが説明された。さらに国立がん研究センターが中心となり、わが国の大規模分子疫学研究体制構築に関する研究が J-MICC 研究も含めて来年度よ

り開始され、上記の GWAS 用タイピングデータの利用が想定されていることが報告された。

8. 横断研究ワーキンググループからの報告

横断研究ワーキンググループ（浜島）より、理研で遺伝子型を決定しての横断研究による論文作成状況について報告された。今後このデータを有効活用する目的で、関心のある研究者にデータを公開していくため、最終調整を行っていることが報告された。委員より公開の程度について質問があり、浜島先生より、共同研究者として参加するという意味であり、J-MICC 側の研究者も共著者となり、データの解釈が妥当であるかなどのチェックが必要との回答がなされた。また委員より、海外からの研究者の依頼は受けるのかとの質問があり、主任研究者（田中）より、まだ決定ではないが基本的には日本で文部科学省の科学研究費を受けて研究している研究者を考えていると回答された。委員より、信用できる研究者にデータ提供を限定する仕組みを考えるべきであるとのコメントが出された。

9. ベースラインデータの出版について

主任研究者（田中）より、J-MICC 研究、J-MICC 連合、および J-MICC 研究と連携している山形県コホート研究ならびに鶴岡メタボロームコホートの研究参加者のベースラインデータを集計し、今年 8 月末を目標に書籍として出版する予定であることが報告された。具体的には対象者を 7 地域に分けて集計し、解説を分担して執筆することが説明された。

10. J-MICC 研究ホームページについて

中央事務局（内藤）より、研究者へのインタビュー特集が順次掲載されており、これまでに計 14 回のうち 10 回が掲載されたことが報告された。

11. 学会・論文発表状況

中央事務局（川合）より、J-MICC 研究開始時からの論文・学会発表数について報告された。J-MICC 全体研究による原著論文が計 26 編、学会発表が計 48 題あり、独自研究・共同研究分も含めると、原著論文が計 137 編、学会発表計 272 題であることが述べられた。